

目次

■特集	都市再生整備計画事業 鶴来地区	
	白山開山1300年の節目の年 鶴来のまちづくり	…1
■	まちづくりの動き	
	コンパクト・プラス・ネットワークの本格実施	…5
■	あのまち、このまち“まちづくりめぐり”	
	木場潟公園、金沢城公園の飲食施設について	…6
	金澤町家情報館が開館しました	…7
	都市計画道路 寺町今町線(東山)の完成	…8
■	センターだより	…9

特集

都市再生整備計画事業 鶴来地区

白山開山1300年の節目の年 鶴来のまちづくり

1. はじめに

白山市では、都市再生整備計画事業をはじめとした鶴来地区のまちづくりに取り組んでいます。

また、平成29年は、霊峰「白山」が開山から1300年を迎えます。白山市ではこの節目の年に市民参加での交流、連携により「白山」への意識を高め、愛着を深める事業に取り組むこととしています。その取組の一部を紹介します。

2. 鶴来地区都市再生整備計画事業について

鶴来地区は、白山麓地域の玄関口として、白山比咩神社の門前町として、また、製材業・醸造業等の産業拠点として、古くから発展してきた歴史ある地域であります。



▲白山比咩神社

本地区には、それらが育んだ伝統的な街並みや多種多様な民俗文化、伝統工芸・特産品・産業が存在し、様々な特色を持つ町として現在も5,000人以上の人々が生活を営んでいます。しかしながら、近年の人口減少と少子高齢化、伝統産業・商業の不振など、本地区を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。さらには、平成21年に北陸鉄道石川線鶴来駅～加賀一の宮間の廃線に伴うまちなか来訪者数の減少やまちなかでの買い物客の減少とそれに伴う空き店舗の増加等により、市街地の空洞化に拍車がかかっています。

一方で、白山比咩神社や獅子吼高原、石川県ふれあい昆虫館等が立地する南の観光拠点には年間90万人もの来訪者があり、この来訪者をいかにまちなかに誘導するかが課題となっています。

本地区には、豊かな自然環境をはじめ、伝統料理、四醸造・獅子頭等の特産品、ほうらい祭り等のイベントなど、地域資源が豊富にあることから、これらの有効活用と交通ネットワークの構築等により、来訪者をまちなかに誘導し、多くの人々でにぎわう活力のあるまちなかの創出が期待されています。

このような背景の中で、石川線の一部廃線問題に対処するために、地元関係者を中心とした「鶴来まちづくり委員会」を設立し、廃線問題という課題のみでなく鶴来地区中心部の将来について活性化方策を再考し、ハード・ソフト両面からまちづくりのあるべき姿とその実現に向けた方策を検討してきました。

平成24年3月には、これらをまとめた「鶴来まちづくり活性化計画書」を策定するとともに、これを受けてまちづくりメニューの実践に向けた検討を行い、整備計画では鶴来まちづくり活性化計画書の具現化を図るべく、白山比咩神社からまちなかへの誘導・まちなかで楽しく歩ける仕掛け作りを目標としたハード・ソフト両面の整備を行っています。

3. 鶴来まちづくり協議会の体制づくり

鶴来まちづくり活性化計画を実行するため、平成25年に「鶴来まちづくり協議会」を設立し戦術メニューを推進してきましたが、地域住民が自分達でまちづくりを実行し、様々な課題を把握して意見を集約し事業やまちづくりの参加者と連携するため、今年度、新たなメンバーを加え組織改編しました。

まちづくりを実行するためのプロジェクトチームとして、

- ・旧加賀一の宮駅舎利活用プロジェクトチーム
- ・サイクルタウンプロジェクトチーム
- ・獅子吼活性化プロジェクトチーム
- ・語り部プロジェクトチーム

があります。

4. まちなかへ誘導する「魅力」の整備

本地区には、手取川に沿って南北方向に、国道157号や主要地方道金沢鶴来線、鶴来水島美川線等の幹線道路が通過していますが、これらの道路を結ぶ東西方向の道路が脆弱であることが、まちなかへの来訪者を少なくさせる一因となっています。

今年度、都市再生整備計画事業において国道157号から白山比咩神社表参道へのアクセス向上のため、北陸鉄道より譲渡された鉄道敷を活用しながら、乗り入れ道の整備に着手したところです。

また、前述の「旧加賀一の宮駅舎利活用プロジェクトチーム」では、かねてより地元の鉄道利用者に愛され、保存と利活用の方法を探ってきた駅舎の再生と活

用について検討を重ねてきており、今年度、都市再生整備計画事業において実施設計を行っています。



▲再整備が待たれる旧加賀一の宮駅

5. まちなかへ誘導する「足」の整備

地区住民や来訪者を本地区の観光拠点やまちなかに誘導するため、観光施設とまちなかを周遊しながら連絡する周遊バスルートの整備を図る必要があります。

また、周辺地域からまちなかへの自転車利用者を呼び込むために駐輪施設の整備、そして、手取キャニオンロードとの連携と共に、鶴来駅や旧加賀一の宮駅にレンタサイクルを備えたサイクリングターミナルを整備し、バス等との連携強化により、自転車によるまちなか誘客を促進します。



▲はくさんGOレンタサイクル

「サイクルタウンプロジェクトチーム」においては、歩行者や自転車利用者が観光施設の場所やトイレ、休憩所など目的の場所に誘導するためのサイン計画、ロードバイクなどの駐輪スタンドの整備などを検討しています。

6. まちなかへ誘導する「しかけ」の整備

来訪者が楽しみながらまちなかを散策できるしかけづくりも求められ、まちなみ整備やまちなか散策ルートの設定をはじめ、継続性のあるイベントの実施、特産品の製作体験をできる機会の提供等により、まちなか散策の魅力向上を図り、誘客増加を目指します。



▲高校生語り部の育成

具体的な取り組みとして「語り部プロジェクトチーム」は、子どもたちが、故郷への愛着を持つことができるようにと、昨年度から取り組んできた活動を今年度、新たにプロジェクトチーム活動として協議会に承認された新しい活動です。今年度、(公財)いしかわまちづくり技術センターの「いしかわ子どもの未来創造まちづくり事業」にも採択いただきました。鶴来高校の2年生を中心に、つるぎ語り部チーム“YOH!! ほうらい”として、鶴来の歴史、文化、伝統、産業などを伝承するため、延べ15時間を超える勉強会と実地研修を重ねました。

得られた知識は、「ほうらい祭り」や「白山市まちづくりシンポジウム」において、多くの方々の前で披露する機会が持て、充実した活動となりました。

今後は、高校生だけにとどまらず、鶴来の商店街のみなさんや一般の方も対象を拡大し、観光客に鶴来の魅力をお伝えできるような語り部の育成に取り組んでいくこととしています。

また、獅子吼活性化プロジェクトチームにおいては、民間事業者が撤退して、現在は白山市地域振興公社が指定管理を行っている獅子吼高原についても、地域の重要な観光資源として、利活用の方策について検討していくこととしています。

7. 鶴来本町通り無電柱化事業の概要

事業主体：石川県

事業箇所：白山市鶴来本町三丁目～鶴来新町

道路延長：L=429m

道路幅員：W=12m

(車道3.0m×2、路肩1.0m×2、歩道2.0m×2)

石川県石川土木総合事務所さんのほうで、都市計画道路鶴来本町通り線の無電柱化事業に取り組んでいただいています。



▲整備後イメージ

電線類の地中化により、良好な景観形成が図られることはもちろん、通行空間の安全性の確保、防災機能の向上が期待されます。本地区は、自転車を活用したまちづくりを目指していることもあり、自転車利用者が通行しやすいよう、路肩を広くとっていることが特徴でもあります。

また、無電柱化事業に併せ、平成27年12月には、景観まちなみ重点地区となる協定を地元と市で締結し、指定区域内において建築行為等を行う際は、伝統的なまちなみに配慮した修景を行うこととしており、古くは鶴来街道として賑わいを見せた歴史ある通りの往時の佇まいに近づけるような、伝統的で落ち着いた景観づくりを目指します。

8. 白山市まちづくりシンポジウムの開催

霊峰白山は平成29年に開山から1300年を迎える節目の年となります。

平成28年11月には、白山開山1300年プレイベントとして、鶴来地区のレッツを会場に「白山市まちづくりシンポジウム」を開催しましたところ、地元市民をはじめ、多くのまちづくり団体の関係者にお集まりいただき、盛会に行われました。白山開山1300年を契機に、自分たちの住んでいるまちを足元から見直す契機となりました。



▲白山市まちづくりシンポジウムの様子

9. おわりに

今後、鶴来地区における都市再生整備計画事業や各種事業と併せ、様々な記念事業を行ってまいります。

この節目の年にぜひ白山市へお越しください。

「いいとこ白山」白山開山1300年記念事業

公式ホームページをオープンしました。(2017.3.7) ※



※白山市観光連盟



▲白山開山1300年記念事業ロゴマーク

【問い合わせ先】

白山市建設部都市計画課 TEL: 076-274-9558

E-mail: keikaku@city.hakusan.lg.jp

木場潟公園、金沢城公園の飲食施設について

■ 木場潟公園における飲食店出店者の公募

木場潟公園は、広域公園として年々利用者が増加しており、平成 27 年度は 70 万人を超える来園者で賑わう公園です。

木場潟公園では、飲食・物販サービスは自動販売機しかないため、県内外からの来園者に対する「おもてなし」の向上と本県屈指の白山眺望スポットを活用した民間活力によるサービスの向上と賑わいの創出を目的として、平成 28 年 9 月より西園地での飲食施設出店者の公募を行いました。



— 位置図（木場潟公園） —



— 西園地からの白山眺望 —

平成 28 年 11 月には選定委員会により、小松市内でホテル、レストランを運営している Hif リゾート（株）に決定し、現在、店舗の設計をはじめとした出店準備が進められています。

昼の最新スタイルのカフェ、夕方からは加賀野菜や地元食材をふんだんに使用した、本格的イタリアンディナーを提供することとしており、公園利用者の憩いの場となるとともに、飲食を通じた来園者の新たな増加と、公園の一層の魅力向上が期待されます。

■ 金沢城公園「鶴の丸休憩館」



金沢城公園では、城郭としての価値と魅力、来園者へのおもてなしの向上を図るため、菱櫓、五十間長屋、橋爪門のパノラマが一望できる鶴の丸園地に新たな休憩館の整備を進めてきました。



— 完成イメージ —

■ 飲食施設の概要



— 休憩スペースのイメージ（飲食サービスの提供） —

公募により決定した民間事業者が運営する店舗は、金沢城公園の雰囲気と合わせた和風とし、器に伝統工芸品を使用し、和菓子やお茶などを提供するとともに、お客様に対し、県内のお菓子屋や伝統工芸を扱う店舗などを紹介することとしています。

平成 29 年 4 月 23 日にオープンします。金沢城公園にお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

【問合わせ先】石川県土木部公園緑地課

TEL :076-225-1772

E-mail: e251800a@pref.ishikawa.lg.jp

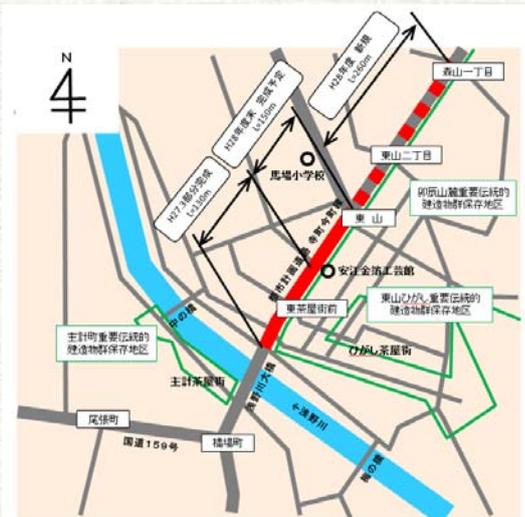
都市計画道路 寺町今町線（東山）の完成

■ 経緯

金沢市東山周辺は、「東山ひがし」「主計町」「卯辰山麓」といった国の重要伝統的建造物群保存地区（いわゆる重伝建地区）を有する歴史的・文化的に非常に重要な地域であり、県内有数の観光拠点です。

都市計画道路寺町今町線（国道359号）は、旧北国街道であるとともに、重伝建地区にも隣接していることから、歴史的な魅力を高めるとともに、歩行者の安全性と回遊性の向上を目的として、平成23年度より無電柱化事業に着手しました。

浅野川大橋から安江金箔工芸館までの130mについては、北陸新幹線金沢開業にあわせ部分完成しており、今回、残る150mが3月に完成する予定となりました。



— 事業位置図 —

■ 事業概要

路線名：（都）寺町今町線（国道359号）

事業区間：金沢市東山3丁目地内

事業期間：H23～H28

事業延長：L=280m、W=15.5m

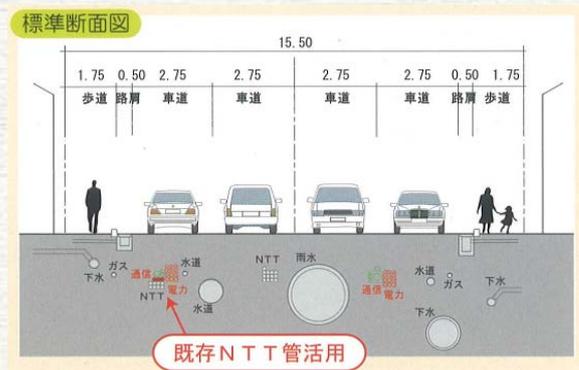
（歩道幅1.75m×両側）無電柱化

事業費：677百万円



■ コスト削減

東山地区では、既存ストックを活用したコストの削減を図っています。これは、NTTの既存の未使用管を譲り受け、それを活用することで、電線管材料、掘削等の工事費を削減するものです。



— 標準断面図 —

■ まちづくり協議会

整備にあたっては、地元まちづくり協議会が主体となり、街灯や歩道のデザインを決定しました。

また、地域の更なる活性化のために地元小学校のPTAが主催する「金沢子ども竹灯り」に参画し、将来を担う子どもたちに、東山大通りの歴史や近年の動向を知ってもらう取り組み等を行っています。



— まちづくり活動 —

■ おわりに

今年度より、森山1丁目交差点までの260mについても、新たに事業に着手したところです。

今後とも、地元と連携を図りながら、整備促進に努めてまいります。

【問合わせ先】

石川県土木部都市計画課 街路・都市交通G

TEL :076-225-1758

E-mail:gairo@pref.ishikawa.lg.jp

金澤町家情報館が開館しました

■金澤町家情報館とは

金沢は、藩政期より約 430 年間、戦禍や大規模災害に遭うことがなかったことから、多くの貴重な歴史文化資産が残っています。

市内には、建築基準法が制定された昭和 25 年以前から存在する木造建築物が約 6,000 棟残っており、金沢らしいまちなみを構成していることから、本市では、これらを貴重な歴史文化資産であると捉え、「金澤町家」と名付け、保全と活用に努めています。

本市は、平成 28 年 11 月、金澤町家のひとつである「旧川縁米穀店」を改修整備し、金澤町家の保全と活用を推進する総合情報発信拠点として、「金澤町家情報館」を開館しました。



■金澤町家情報館の 3 つの機能

金澤町家に関する 3 つの機能を備えています。

- ①総合相談窓口 修繕、売買、賃貸など
- ②情報発信 再生活用モデルとしての見学や改修事例などの様々な情報提供
- ③空間体験 空間を活かした文化体験などのイベントの開催



情報発信コーナー

■金澤町家再生活用モデルとしての見どころ

①居住性の向上

金澤町家の再生活用において、特に改修の必要となる箇所のひとつが水まわりです。

設備機器を現代的なものに更新することや、床下等の断熱などの対策を講じることにより、居住性の向上が期待できます。



現代的な設備に更新

②耐震性の向上

古い建物であるからといって、耐震性が低いとは一概にはいえません。適切な修繕や耐震補強により、伝統構法による建物本来の耐震性能が発揮でき、耐震性の向上が期待できます。



耐震壁としての面格子



柱の根継ぎによる健全化

なお、午後 6 時から 9 時までに限り、一部を会議室としてご利用いただけます（要予約、有料）。ぜひ一度、金澤町家情報館へお越しください。

【問合わせ先】

金沢市文化スポーツ局町家保全活用室

TEL:076-220-2311

E-mail:rekishitoshi@city.kanazawa.lg.jp

金澤町家情報館（9:00～17:30、水曜日休館）

TEL:076-208-3231

E-mail:kanamachi@city.kanazawa.lg.jp

URL:http://kanazawa-machiyajouho.jp

センターだより

まちづくりリーダー研修会開催!

□ 各地のまちづくりリーダーが集結

当センターでは、“将来のまちづくりを担う子供たちと一緒にまちを知り、考える活動を支援する「いしかわこどもの未来創造まちづくり事業」と“地域の風土・食・伝統をテーマとしたまちづくり活動を支援する「我（和）がまちづくり（いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業）」の2事業により、地域のまちづくり活動への助成を行っています。

今回、活動団体からの報告と、各地でご活躍されている方々と意見交換を行う「まちづくりリーダー研修会」を開催しました。

□ 開催の概要

- 開催日：平成29年2月19日（日）
- 場 所：石川県勤労者福祉文化会館2F
- 内 容：【第1部】活動団体からの報告（9団体）
【第2部】意見交換会
【認定証交付式】



▲ 研修会の様子

□ 県内各地の様々な活動の取り組みを報告!

第1部の活動報告では、今年度助成した9団体から取り組んだ内容について報告がありました。活動団体の作品等も会場に並び、地域ならではの思いが伝わる報告となりました。



▲ 活動時の制作物の展示

□ 意見交換会

第2部では、活動団体のリーダーや委員、来場者の方と意見交換をしました。ここでは、活動の広げ方や現在の課題などについて意見を出し合い、今後のまちづくり活動の参考としました。また団体間の交流の場として更に活動が広がる事が期待されます。



▲ 意見交換会の様子

□ 認定証交付式

研修会の最後には活動団体へ今後の活躍の期待を込め、認定証交付式が行われました。



▲ 認定証交付式

□ 参加者の声

- 様々な活動、現状、呼びかけの方法などを知る事が出来、勉強になりました。
- 様々なアプローチによるまちづくりを見ることができ、大変興味深かった。
- 5年後、10年度の地域のためと考え方は全く同感。このような活動に取り組んでいる人には頭が下がる。キーワードは「楽しむ」
- 実際に活動の主軸を担っている方々の話は、苦勞の面などが分かりとても良かった。

【研修会の様子を見たい。そんな方へお知らせ】

リーダー研修会報告資料をお届けします。当センターへお問い合わせ下さい。

編集後記

今回は「白山市鶴来地区の都市再生整備計画事業」について特集しました。

地域のまちづくりを盛り上げるには、世代を超えた地域住民との協働や、地域の声を反映した取り組みが不可欠であることを再認識することができました。

白山開山1300年という節目の年に、白山の奥深い魅力を感じてみてはどうでしょうか。

当センターでは、今後も皆さまのまちづくりのサポートを行っていきたく

思います。お気軽にお問い合わせ下さい。

編集協力：石川県（都市計画課、建築住宅課、公園緑地課）、金沢市、白山市

発行：公益財団法人

いしかわまちづくり技術センター

TEL:076-232-2255 FAX:076-232-2532

HP：<http://www.machisen.jp/>

発行日：平29年3月